

# 水 振 協 ニ ュ ー ス

(令和 6 年度号)

編集・発行 (公財) 滋賀県水産振興協会

草津市志那町柿根 1393-2

TEL 077 (568) 3451

FAX 077 (568) 3788

令和 6 年度の放流事業結果は・・・

- ・「ニゴロブナ 1,050.4 万尾・ホンモロコ 228.1 万尾」を放流。
- ・「人工河川へアユ親魚 20.9 トンの放流」を実施。「52.1 億尾のアユふ化仔魚」が琵琶湖へ流下。

## ニゴロブナ

6～7 月の 2 cm 稚魚の放流尾数は、水田育成が 805.0 万尾(計画 800 万尾)、栽培漁業センター及び北山田地先筏施設(草津市)での生産放流が 63.3 万尾(計画 60 万尾)、合計 868.3 万尾でした。また、10～12 月にかけて、平均体重 21.2 g の大型稚魚 50.6 万尾を栽培漁業センター、平均体重 19.4 g の大型稚魚 37.4 万尾を北山田地先筏で各々生産し、さらに滋賀県漁業協同組合連合会(県漁連)から平均体重 16.0 g の大型稚魚 9.4 万尾を購入し、合計で 97.4 万尾(計画 97.5 万尾)を放流しました(放流内訳は南湖 30.3 万尾、北湖 67.1 万尾)。その他に、県漁連では 10 月に平均体重 22.8 g の大型稚魚 7.8 万尾を独自事業として北湖へ放流されました。

**水田育成** 稚魚育成に御協力を頂いた 551.4 反の水田にふ化仔魚で 2,236.2 万尾を放養し、約 1 か月後の中干時に 2～3 cm の稚魚 805.0 万尾を琵琶湖に放流しました(放流内訳は南湖 165.2 万尾、北湖 639.8 万尾)。なお、水田からの稚魚の流下率(流下尾数／放養尾数)は約 36%でした。

さらに、赤野井湾近辺の水田 53.3 反にふ化仔魚 216.0 万尾 (計画 200 万尾)を放養し、約 1 か月後の中干時に 2～3 cm の稚魚 84.7 万尾を琵琶湖に放流しました。

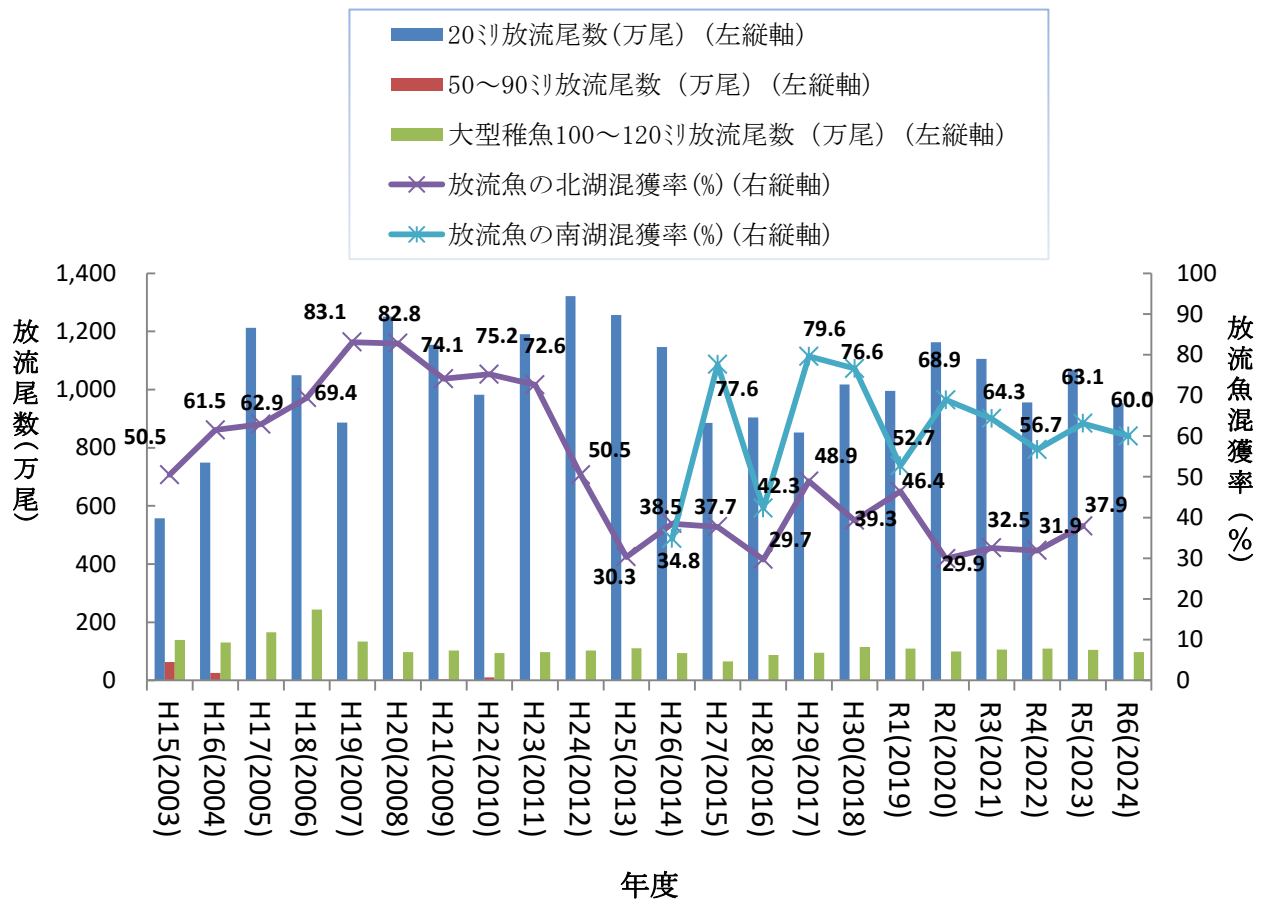
**放流効果** 当協会では種苗放流の事業効果を知るために、令和 7 年 2～3 月の今冬季に、北湖において小糸網で漁獲されたニゴロブナの標識放流調査を行っています。今冬季の放流魚の混獲率(漁獲魚に占める放流魚の割合)は調査中ですが、令和 6 年 2～3 月(冬季)の放流魚の混獲率は 37.9%(前年は 31.9%)で(北湖での漁獲物 1,053 尾調査)、前年よりも 6%程度高い値でした。それら放流魚のうち、水田放流の稚魚と沖合及び沿岸に放流した大型稚魚の混獲率の内訳は、各々 15.7%と 21.8%でした。また、令和 6 年 3～5 月の南湖における放流魚の混獲率(調査尾数 246 尾)は、60.0%(内訳は水田放流の稚魚が 39.7%、大型稚魚が 20.4%)(前年は 63.1%)で、例年と同様、北湖よりも放流魚の割合が高い結果となりました。なお、平成 26 年度～令和 5 年度まで、10 か年の北湖及び南湖の放流魚の平均混獲率についても、各々 37.3%及び 61.7%で、南湖の方が放流魚の割合が高くなっています。



ニゴロブナ漁獲物の標識調査



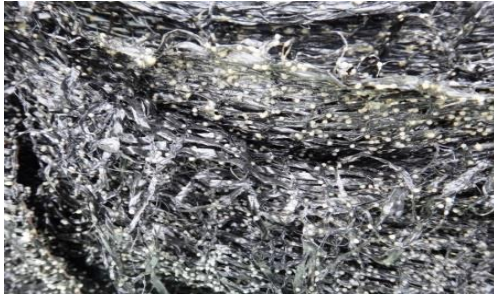
ニゴロブナ大型稚魚の放流(北湖,高島市新旭地先)



ニゴロブナの年度別放流尾数(万尾)及び放流魚混獲率(%)の推移

## ホンモロコ

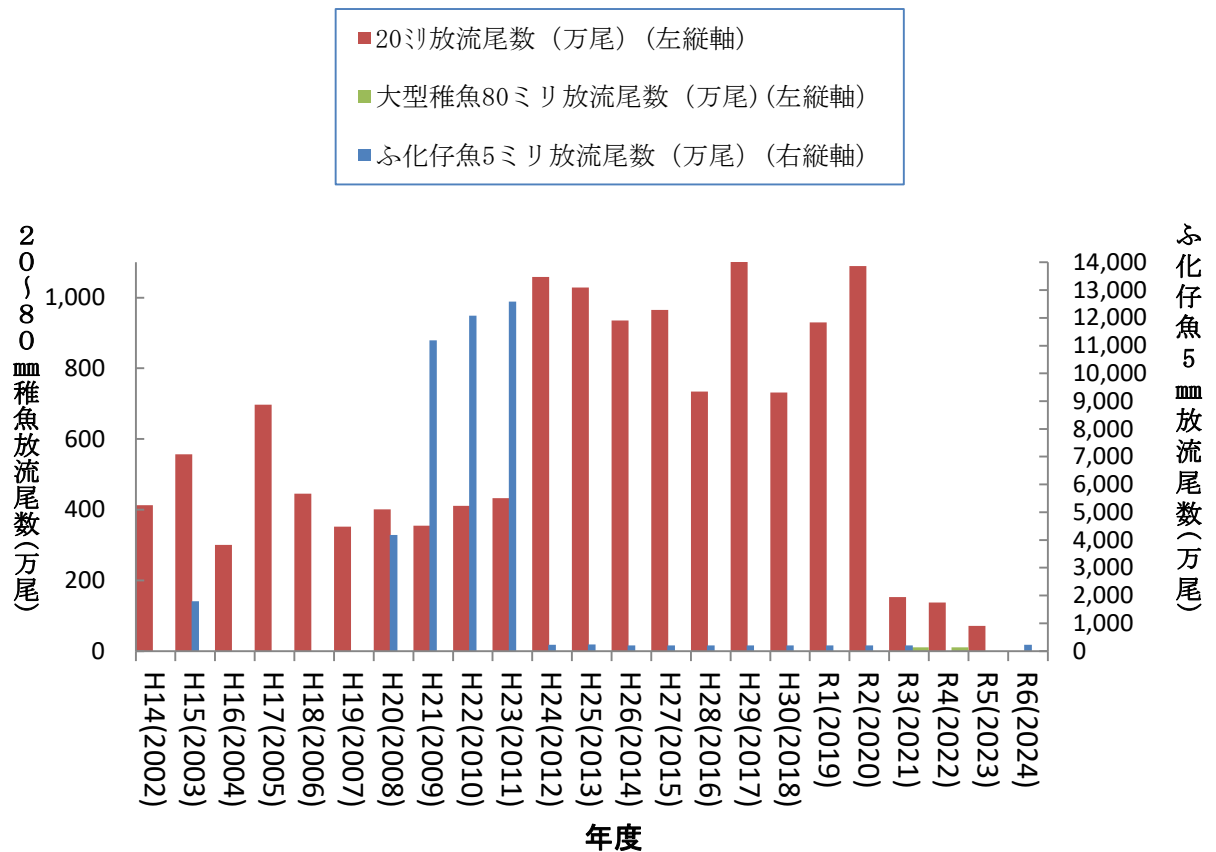
ホンモロコの放流は、5月に主に琵琶湖周辺のヨシ帯(水田放流を含む)にふ化仔魚(又は卵)で放流し、その放流尾数はふ化仔魚換算で、合計 228.1 万尾(計画 100 万尾) でした。



産卵基体(遮光幕)に産着させた  
ホンモロコ卵(北山田筏施設)



ホンモロコの卵放流(青色の網袋に入れ、  
ふ化まで外敵から保護,高島市四津川地先)



ホンモロコの年度別放流尾数(万尾)の推移

## ワタカ

南湖で漁獲されたワタカについて、毎年度、標識調査(受託事業)を行っていますが、令和6年度の放流魚の混獲率(調査尾数31尾)は、45.2%(令和5年度は90.7%)でした。

また、過去8か年間(平成29年度～令和6年度)の放流魚の平均混獲率は81.0%で、南湖においては、天然のワタカ資源が非常に少ない状況が続いていることがわかります。



ワタカ漁獲物の標識調査

## ゲンゴロウブナ

ゲンゴロウブナは、植物プランクトン食で、特定の植物プランクトンの優占を抑制する効果が期待できることから、ニゴロブナ、ホンモロコと同様に水田を活用した効率的な生産放流事業を平成30年度から実施し、令和2年度から、種苗放流の事業効果を知るために、放流魚の一部に標識を施して放流しています。

放流魚の標識調査(受託事業)は、南湖で漁獲されたゲンゴロウブナについて、令和4年度から実施していますが、令和6年度の調査を含めて過去3ヶ年の放流魚の混獲率は0.0%(過去3ヶ年の調査尾数合計107尾)でした。

## アユ（人工河川管理運用事業）

令和6年度は、早期(通常)放流用の養成親魚として、8月28日～9月3日にかけてアユ親魚8,000kg、190,300尾を安曇川人工河川へ、9月14日～21日にかけては、追加の養成アユ親魚5,000kg、134,700尾を安曇川人工河川へ各々放流しました。また、9月3日～6日にかけて姉川河口のヤナで特別採捕した天然親アユ7,240kg、440,900尾の内、姉川人工河川へは4,018kg(242,000尾)、安曇川人工河川へは2,909kg(179,600尾)及び県指定の近隣の常水河川へは313kg(19,300尾)を各々放流しました。さらに、本年度は9月上、下旬に安曇川、姉川両人工河川に遡上したアユ天然親魚計約1,000kgを、両人工河川に放流した(放流内訳：安曇川人工河川約200kg、姉川人工河川約800kg)。それらすべての両人工河川放流親魚の産卵ふ化の結果、9月9日～11月3日にかけて合計で52.1億尾(前年は38.2億尾)のふ化仔魚を琵琶湖へ流下させました。



養成親魚の放流(安曇川人工河川)



流下ふ化仔魚の調査(安曇川人工河川)



流下ふ化仔魚の計数

最後になりましたが、県水産課、県水産試験場及び各関係漁業組合の各位に対しまして、種苗生産、放流及び標識調査にご協力頂きありがとうございました。